

新型コロナウイルスの流行に伴う新しい生活様式が始まったことで、普段の生活や研究生活に変化はたくさんありましたが、「不自由の先に自由がある」ことを信じて、前向きに受け止め、適応していくことができたと思います。

### 学業面：

まず、研究の拠点がキャンパスから自宅に移ることになりましたが、それに慣れれば特に不自由はありませんでした。同志社大学では4月末頃から徐々にオンラインで授業が行われる方針が固まってきました。最初は研究室や図書館の利用ができず、教員との面会も許されない状況に戸惑いました。しかしそのうちに、「不便さ」が徐々に「便利さ」変わっていったのではないかと思います。例えば、大学側は在宅学習に向けて、オンラインデータベースの開放をしたり、自宅でもストレスなく大学のネットワークを使用できるようにしたりする対策がありました。さらに、ディスカッションを中心とする授業もオンライン仕様にシフトされていきました。対面の感覚とは異なりますが、普段だとあまり意見を述べることのない受講生が進んで話をするようになったりするなど、マイナスがプラスになっているように思います。こうした取り組みはいずれも対面授業が開始した後でも継続してほしいもので、今の時期だから生じ得たメリットだと思いました。

次に、移動時間等の心配がなくなったため、聴講できる科目が増え、これまでにチャレンジできなかった「計量政治学」の授業を2コマ聴講しました。語弊を恐れずに言えば、素直な気持ちとして、ラッキーだと思いました。中国政治や国際政治の分析に関して、これまで「安全保障・経済・国内情勢といった側面を全て考慮して全体図を把握するように」と、指導を受けてきました。しかし、全体像の把握力はある程度身についたものの、ある特定の分野において、どのように説得力のある文章を書くかに関しては、自分はまだまだ力が弱いと感じています。これまでは1次文献を活用して分析するというよりも、2次文献を活用した概説論で文章を構成してきたように思います。時間の余

裕ができた今だからこそ、聴講しているオンライン授業で一次文献や一次データを基にした「計量政治」のアプローチを学び、研究に活用しようと思っています。

#### 生活面/課外活動：

例年ですと、「京都名誉友好大使」の身分として、「京の七夕」という祭りイベントで観光客の案内を務めさせていただくチャンスがあるのですが、今年は中止となりましたので、こうしたボランティア活動のチャンスがだいぶ減りました。唯一できたボランティア活動は、オンラインで京都府内にある高校の人権教育クラスでゲストスピーカーを務めることでした。外国人ゲストスピーカーの一員として、母国の事情と日本の事情との比較を紹介し、高校生からの質問に答えるといった形で行われました。オンラインではありましたが、高校生の学びに対する熱意がしっかり伝わってきて、ゲストスピーカーでありながらも、自分もしっかりしようと、身が引き締まる思いでした。

こうした形で、できないことの中からできることを選んだり、またはできないことを前提にできる方法を考えたりしている中、デメリットだけではないことがだんだん分かってきました。そして、「できない」ということが最も怖いのではなく、「できないと  
思って動かないこと」が一番怖いと思いました。朝ドラ『スカーレット』に出てくる陶芸家のジョージ富士川が癖のある関西弁で放った言葉を思い出しました：「自由は、不自由や。で、不自由の先にまた自由がある。ほな、自由ってなんや。」よく分からないのですが、「不自由の先にまた自由がある」というのは、まさに今の状況に当てはまるのではないかと思いました。